

1991年 ECLAC

## ラテンアメリカ経済速報

抄訳

山岡加奈子  
坂口 安紀<sup>=訳</sup>

## 1 総括

国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会の暫定報告によれば、ラテンアメリカ・カリブ地域のGDPは全体で3%成長し、3年間にわたる実質的経済停滞から多少の回復をみせた。これにより1人当りGDPは、1%未満と微少だが4年ぶりに成長を記録し、1977年の水準を回復した。

ラテンアメリカ・カリブ地域全体の経済成長が緩慢だったのは、いまだ高インフレに悩むブラジルで不況が長引いていることが強く影響している。また、ニカラグア、ホンジュラス、ペルー、ドミニカ共和国においても、厳しい安定化政策の結果不況が続いている。それ以外の国々の平均成長率は1990年の成長率を上回る4.5%前後であった。この成長率は、世界的な貿易の伸び悩みにより同地域の輸出が停滞していたにもかかわらず達成された。

ラテンアメリカ・カリブ地域の多くの国は、1990年の伸び率と同じかまたはそれを上回る3~5%で成長した。エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、パナマ、パラグアイでは引き続き生産が拡大し、ボリビア、チリ、エクアドルでは生産の回復がみられた。アルゼンチンの場合には高インフレを克服したのち生産が回復した。ウルグアイは3

年にわたる経済停滞から抜け出し2%の成長をみせた。不況下にあるペルーでは今年インフレ率が低下し、他の国と同様に生産の回復がみられた。一方、90年にも高成長をとげたベネズエラはそれをはるかに上回る約9%の成長率を達成した。他方コロンビア、コスタリカ、ジャマイカでは成長が鈍化し1~2%の成長率に留まり、トリニダード・トバゴでも引き続き成長率は低迷した。不況と高インフレに苦しむブラジルの生産は前年に比べて1%近い成長を示した。ホンジュラス、ニカラグア、ドミニカ共和国ではインフレ対策を講じているものの、あいかわらず不況が続いている。一方バルバドス、ハイチでは景気がまた後退した。

1人当りGDPはほとんどの国で多少の成長を示したが、12の国々では停滞あるいは後退した。ボリビア、コロンビア、エクアドル、エルサルバドル、メキシコ、ウルグアイでは1人当りGDPの成長率は1~2%であったが、アルゼンチン、チリ、パナマ、ベネズエラでは3%以上を記録した。

同地域に導入されて1年になる経済安定化政策はほとんどの国においてインフレ圧力を軽減した。同地域において1989、90年のインフレ率は1200%前後を推移していたが、91年には消費者物価の年上昇率の加重平均が200%にまでおさまリ、まさに鎮静化傾向を示している。インフレ鎮静化でもっとも進展をみせたのは高インフレに悩んでいた国々である。アルゼンチンでは月インフレ率が急速に1%以内に収束した。ペルーでは過去2カ月の平均月インフレ率が4%にまで下がり、ウルグアイでも5%にまで下がった。同様に目をひくのは、

CEPAL : Comisión Económica para América Latina y el Caribe, *Balance Preliminar de la Economía de América Latina y el Caribe - 1991.*

ニカラグアで3月以降おこったデフレで、この結果91年の平均月インフレ率は3%未満となった。一方ブラジルではインフレが再燃しており、月インフレ率が20%を上回っている。

また、中程度のインフレを抱えるいくつかの国々では、1990年から続いているインフレ圧力の軽減に成功をおさめている。メキシコでは12カ月間の価格上昇率が90年12月には30%だったのが91年11月には20%に下落したのをはじめ、パラグアイでは44%から14%に、グアテマラでは60%から25%に、チリでは27%から18%へと下落した。また、近年高インフレに悩んでいたドミニカ共和国でも同時期12カ月間の価格上昇率が100%から25%へと下落した。

しかしながら中程度のインフレを抱える国の中でもボリビア、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、ベネズエラ等かなりの国では、インフレ率を1990年の水準以下に抑えるのが難しい状況であった。ただしその中でも一部の国では91年後半に入ってからインフレの減速傾向がみられた。一方ジャマイカではインフレが進行し、年インフレ率が30%から56%に上昇した。

1991年には多くの国で、輸出額が減少または停滞しているにもかかわらず輸入能力が著しく拡大した。これは、純利潤・利子支払いの軽減と、そして何よりも資金流入の結果である。そのような状況のもと、多くの国で実質為替レートが低かった（自国通貨が強かった）こと、貿易自由化のための改革が行なわれたことで、生産水準の回復および拡大をはるかに上回る規模で輸入が拡大した。この輸入拡大により、債務危機以降ラテンアメリカ・カリブ地域が抱えてきた貿易収支の大幅な黒字は91年にはほぼ横ばいとなった。

一方で、同地域では交易条件が再度悪化した。1991年には交易条件は5%以上悪化し、85年以降続いてきた交易条件の悪化をさらに進行させた。交易条件の悪化は石油輸出国に集中してみられたが、多くの非石油輸出国でも交易条件が悪化した。

この結果、同地域の輸出による購買力は5年ぶりに低下した。

ラテンアメリカ・カリブ地域の輸出は、過去2年間は年率約10%で拡大してきたが、1991年には停滞し1220億ドル前後に留まった。これは、輸出量自体は約6%で拡大しつづけているものの単位当りの輸出価格が下落したためである。

非石油輸出国と同様石油輸出国においても輸出の停滞がみられた。石油輸出国の輸出停滞の主因は湾岸戦争終結後の平均石油価格の下落である。石油輸出国は湾岸戦争を石油輸出量割当ての引き上げで対応していた。しかしながら輸出が伸び悩んでいたにもかかわらず、大量に資本が流入したこと、またそれより規模は小さいが純利潤・利子支払いが軽減されたことにより、石油輸出国の輸入購買力は拡大した。また外貨準備も増大し210億ドルに達したが、これは前年の輸入額の約45%にあたる。

南アメリカの非石油輸出国のなかでは、輸出が拡大したのはチリと、それより小規模ながらブラジルのみで、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイでは輸出の著しい縮小が見られた。一方中米・カリブのほとんどの国では輸出額が増大した。これらの国々で輸入能力が増大したのは主に純利潤・利子支払いが30億ドル近く削減されたことによる。アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイおよびほとんどの中米諸国で増大している純資本流入が、ブラジル、チリにおける資本流入の減少を埋め合わせている。

ラテンアメリカ・カリブ地域の輸入額は1100億ドルに達し、前年に比べ19%増となり、2年連続して輸入額が増加した。輸入増加は同地域全般にかなり広くみられたが、特にメキシコ(77億ドル増)、ベネズエラ(40億ドル増)、アルゼンチン(36億ドル増)に集中している。

この結果貿易収支の黒字幅は、約300億ドルであった過去2年より縮小し、1991年には120億ドル以下となった。このため、今年は利潤・利子支払い

が減少したにもかかわらず、貿易黒字の対債務支払い比率は40%を超えた。なお、同比は前年には85%であった。

純利潤・利子支払いは2年連続して減少し、290億ドルを少し上回る程度だった。これは主に国際的に利子率が低下したためである。しかしながら国際収支のうち近年縮小傾向にあった経常収支赤字は、貿易黒字が減少したため170億ドル以上に拡大した。

経常収支赤字は、それをはるかに上回る360億ドルの純資本流入によって埋め合わされた。1990年に計上された純資本流入は89年の2倍であったが、91年にはさらに倍増した。純資本流入の増加は同地域にかなり一般的にみられたが、地域の総資本流入の増加は一部の国に集中している。メキシコでは資本流入は2年連続して著しく増加し、約200億ドルに達した。アルゼンチンも35億ドルという大幅な純資本流入の増加があり、91年の資本収支は50億ドルを上回った。ベネズエラでは前年の46億ドルにのぼる資本収支赤字が今年20億ドル近くの黒字に転換した。ペルー、ボリビア、パラグアイ、および中米6カ国中4カ国でも資本流入が増加した。逆に純資本流入が大幅に減少したのはブラジル（資本収支が赤字になった）とチリ（対外債務の減少と短期投資の利潤削減政策によって）である。

1991年に計上された投資のほとんどは民間投資で、さまざまな性格のものであった。アルゼンチン、メキシコ、ベネズエラ、チリでは大規模に外資も導入された。特にそのうち前者3カ国では公営企業の民営化という形で継続性を持つものも一部あった。またメキシコと、それよりも小規模ながらベネズエラ、ブラジル、アルゼンチンは、海外において国債を発行した。また、上記の諸国に加えその他の国々においても、国内外の金利差にひきつけられた短期金融投資が大幅に増えた。企業による自己融資のための送金も行なわれた。最後に、ラテンアメリカ・カリブ地域のほとんどの国では、債務返済を遅らせることが引き続き重要

な資金調達の方策となっている。

資本流入が経常赤字の2倍以上であったため、同地域の国々の外貨準備は3年連続して増加しており、1991年には約190億ドルに達した。外貨準備の増加は地域全般に見られた傾向で、減少したのは5カ国のみであった。

利潤・利子支払いの軽減により1991年の純資本流入は大幅に増大し、同地域の純資本移転は81年以来初めて黒字となった。90年には対外純送金が160億ドルであったのが91年には転じて純資本流入が70億ドルとなった。しかしこれは基本的には地域内のごく一部の国の資本収支が好転した結果である。つまり地域全体の資本流入の半分はメキシコの資本収支黒字の増大によるもので、30%はベネズエラの資本収支黒字の増大、残り20%はアルゼンチンの資本収支赤字が減少したことによる。90年にもラテンアメリカ・カリブ地域の対外純資本移転は減少したが、それが延滞債務の増加によるものだったのに対し、91年に多くの国でみられた資本収支の改善は資本流入（主に非借入れタイプのもの）の増加による。

ラテンアメリカ・カリブ地域（カリブの前英領国を除く）の対外債務残高は実質的には変化せず、4260億ドル前後を推移している。対外債務残高が現状を維持し増加しなかった原因として国内外債務の削減政策があげられる。特に対外債務の削減に関しては、7カ国が米国政府との二国間交渉によりとりつけた債務削減が重要である。一方、プレイディ・プランの枠内では債務削減に関してめだつた進展はなく、1991年には新たな同意に達しなかった。債務残高が減少した他の要因として、この12カ月間米ドルが欧州通貨に対して強かったこと、非借入れタイプの多様な融資を多くの国から大量にとりつけることができたことがある。このように対外債務が一部削減されたにもかかわらず91年の対外債務残高が横ばいだったのは、一方で債務残高の拡大要因が働いていたからである。その主なものとして、一部の国が国際債券市場で債務を

増加させ、債務国のほとんどで延滞利子が累積していることがある。

債務／輸出比率は、ラテンアメリカ・カリブ地域全体としては3年連続で横ばいとなり、300%という高い水準に留まっている。しかし個々の国でみるとそれ以下の200%という国が6カ国ある(1988年にはたった1カ国しかなかった)。利子支払い／輸出比率は5年連続して低下し22%であった。まだかなり高いとはいっても利子支払い／輸出比率が低下傾向にあるのは、主に国際利子率の低下により粗利子支払いが減少したこと、またそれに比べて規模は小さいが銀行債務が減少したこと、公的債務の一部がキャンセルされたことによる。

債務問題については上記のようにかなりの進展もみられたが、債務支払いはラテンアメリカ・カリブ地域にとってまだまだ深刻な構造的問題である。たとえばほとんどの国において債務／輸出比率がいまだ高い水準にあること、政府が総債務支払いの80%以上を保証しているため政府予算にとって重圧となっていること、などである。現在の国際利子率がまれにみる低い水準にあることから、利子支払い／輸出比率が現在低いのはかなり一時的なものであると考えられる。それに加え、たとえば資本流出が減るという意味で債務返済の延滞が一時的に債務重圧の軽減となったとしても、それはまた不安を生み、経済政策運営やその効力という観点からすれば不都合を生む。その意味で、債務削減政策の強化、遂行はまだ緊急の課題である。

## 2 主な動向

### 1. 生産と雇用

3年間の経済停滞の後、ラテンアメリカ・カリブ地域の経済活動は多少の回復(3%)をみせた。1人当りGDPは、1987年以来初めて増加に転じたが、91年の地域全体のGDPは、債務危機が起こる直前の80年のそれをわずかに16%上回っているに過ぎない。さらに1人当りGDPは80年よりも8%低

く、77年の水準と同じであった。

生産は全体的に成長したが、その成長の態様は国によって異なる。インフレのひどい国々、または極端に厳格な調整政策をとっている国々、すなわちブラジル、ペルー、ドミニカ共和国などを除いた残りの国々の成長率は4.5%で、1980年以来最も高い数字であった。同様に、GDP成長においてもこれらの国々の間で著しい違いがみられた。ベネズエラでは8.5%の高い成長を記録し、アルゼンチン、チリ、メキシコ、およびパナマでは4~5%の増加、ボリビア、コロンビア、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ジャマイカ、パラグアイ、ペルー、トリニダード・トバゴ、およびウルグアイの10カ国では、GDP成長率が2%から3%の間にある。ブラジル、コスタリカ、ホンジュラス、およびニカラグアの4カ国では、成長率は1%以下であった。ドミニカ共和国では生産水準は変わらず、ハイチは生産が落ちた唯一の国である(訳者注——ハイチの他に、バルバドス、セント・ルシアもマイナス成長を記録した)。同様に、域内の3大経済大国を含む12カ国は、90年よりも生産水準が上がった。一方、5カ国では昨年と同様であり、残りの4カ国で生産水準の低下を記録した。

以上で述べたほとんどの国での成長は、高い人口増加率のために、1人当りGDPで見ると停滞または減少した。12カ国で、この1人当りGDPが同じかもしくは減少した。残り10カ国のうち、わずかにアルゼンチン、チリ、パナマ、およびベネズエラだけが3%以上の成長率を保った。域内のほとんどの国々である程度の経済成長があったとはいえ、こうした1人当りGDPの減少は、1991年の1人当りGDPが80年を上回った国はむしろ少なくなってしまったという事実と一致する。すなわち、91年の1人当りGDPは80年と比較して、コロンビア(18%)、チリ(16%)、バルバドス(3%)、およびジャマイカ(3%)となった。反対に1人当りGDPが大きく減ってしまった国々としては、ガイアナ(-40%)、ニカラグア(-38%)、ペルー(-28%)、

ハイチ (-22%), ボリビア (-22%), アルゼンチン (-20%), グアテマラ (-18%), およびパナマ (-12%) が挙げられる。

まずまず良好な経済成長をみせた大多数の国々においても、雇用の面ではさしたる改善がみられなかった。失業率は前年と比べて大きな変化はない。経済成長率が上昇したチリやベネズエラのような国々では、すでに高率であった失業率がさらに悪化した。反対にアルゼンチンでは、失業率は経済回復を反映して1%近い減少をみた。パナマでは、1988年の深刻な危機の後、経済が徐々に正常化してきたことが幸いして、労働市場にいくらかの改善がみられた。しかし同時に失業率も非常に高いままである。一方ブラジルは、景気後退のために2年続けて失業率が上昇した。

## 2. インフレーションと賃金

周知のように、インフレは1991年を通じて収束の傾向にある。ラテンアメリカ・カリブ地域全体で、3年間国内物価の上昇傾向が続いた後、安定化政策の採用あるいは強化、とくに、最も急激なインフレによって影響を受けた国々で遂行中のショック療法によって、インフレ率の速やかな収束が実現した。事実、加重平均によって出された地域のインフレ率は、89、90年の1200%から、91年の約200%まで下落した。このインフレ率はまだ高い数値だが、91年を通じてみられた回復の程度と減少の傾向は、安定を示す兆候である(表3を参照)。

域内諸国の経済が1991年末まで保ち続けた低いインフレ率は、さらに低下することが考えられる。91年第4四半期の22カ国での消費者物価変動率を年換算すると、15カ国が20%以下のインフレ率を示し、3カ国が年30%から50%の間にある。4カ国だけがより高いインフレ率を示した。うち3カ国は55%から80%の間におり、残り1カ国だけが1991年の最後までそれらの国々よりも高い水準にあった。

恒常的に高いインフレ率に苦しんでいた国々で

は、国内物価の上昇率の急激な低下がみられた。これら諸国のほとんどすべてにみられたハイパーインフレーションの後で、1990年半ばから91年の間に取り入れられたショック政策は、為替、金融、財政の大幅な改革を含んでいたが、高水準のインフレを12カ月のうちに急激に減らした。11月までに、アルゼンチンで1350%から90%に、ブラジルで1600%から465%に、ニカラグアでは13500%から90%、ペルーでは7650%から185%にまでなったのである。ウルグアイも上記の国々のグループに入っていたが、90年には年率130%であったのが91年には85%に下がった。安定化政策が効果をあげて、91年末にはアルゼンチンとニカラグアで月率1~2%になり、ペルーでは月平均4%のインフレ率となった。ブラジルの場合は上記の国々と対照的にインフレがさらに進行した。90年に実行されたブラジルの抑制政策は91年初めにさらに強化され、同年第2四半期にいくらかのインフレ率の低下が起こったが、インフレ傾向はそれから反転して10、11月には25%の物価上昇を記録した。

前年まで高インフレであった国々がとった安定化政策は、さまざまな結果をもたらした。ドミニカ共和国では、インフレ率は前の年に100%に上昇した後に25%になった。メキシコでも周知のようにインフレが収束し国内物価変動が20%に(1990年は30%)低下した。これに対してベネズエラではそれほどの進歩はなく37%から33%、同じくエクアドルでも50%から47%であった。グアテマラでは前年消費者物価に著しい上昇がみられたが、91年には25%の上昇であった。

インフレが中程度の国々の間でも異なった状況がみられた。前年のインフレの兆しを逆転することに成功した国々もある。チリでは27%から18%、パラグアイでは44%から14%、エルサルバドルでは19%から14%に下がった。一方、インフレ収束に強い抵抗を受けている国々もある。コロンビアの物価上昇はわずかに緩やかになった(32%から29%)。ボリビアでは18%から16%、ホンジュラスは

36%から33%の下落である。他方コスタリカでは、年率約27%前後で推移した。これに反して、ジャマイカでは1991年8月までの1年間に物価は56%上昇した。これは前年のインフレ率のほぼ2倍で、史上最高の上昇率となった。

歴史的にインフレ率が低い国々の中で、ハイチの1991年の年率17%の物価上昇は、前年の水準は下回ったもののハイチの通常のインフレ記録の中では高い数値であった。トリニダード・トバゴも、10%前後のインフレが数年間続いた後、4%まで下落した。パナマとバルバドスは、それぞれ3%と6%の上昇をみた。

国内物価の下落は、明瞭な形で給与所得者の購買力に影響を与えた。法定最低賃金の実質水準は、統計利用可能な国々の大部分で再び下がったが、実質平均賃金の状況はさまざまだった。1人当りGDPが成長したアルゼンチン、チリ、メキシコ、およびウルグアイでは、実質平均賃金は上昇した。しかし、1人当りGDPが停滞もしくは低下したブラジル、コロンビア、ペルーでは、実質平均賃金は下がった。このことから一般的に、それぞれの国のフォーマルセクターで支払われた実質賃金の変化が平均生産性の変化に伴うものであったといえよう。

大多数の域内諸国の経済政策を特徴づけたものとしてとくに注目されるのは、インフレ過程に大きな影響を与えた二つの事実である。一つは公共部門の財政赤字を減らしたことで、もう一つは外国資本の大幅な流入の中で為替レートが低下したことである。

過去2年間にとられた厳しい財政調整政策のために、公共部門の財政需要は著しく減少したが、域内のほとんどの国々で1991年には財政均衡政策がより一層進んだ。公共部門の再建を最近になって始めた国々では、早期より調整を始めた国々よりも予算管理が脆弱であることが示されている。多くのケースでは、消費や投資などの支出を極端に抑制し収支を合わせることによって財政均衡を

得た。そのため納入代金、公務員の賃金等の支払い遅延さえ起きてしまったほどである。公営企業の民営化に代表される固定資産の売却に頼ったケースもある。これによって資本が流入し、国庫の収支の均衡が保たれた。これらの国々では、財政改革に基づく安定化政策の成功は、臨時収入が恒久的な財源に置き換えられるかどうか、そして行政サービスの根本的な改革の中で支出の削減が行なわれるかどうかにかかっている。それが行なわれない場合には、公共部門の財政均衡について疑問が生ずるかもしれない。また、現在までの反インフレ政策の成果を否定する要因を生じさせるかもしれない。

もう一つの要因は、もともと高い水準からであったが、為替レートが低下する傾向にあったことである。一方では外貨供給が増大し、他方では為替不安が解消するに従って、外貨需要も減少した。流入した外資の大部分は短期民間資本であり、その多くが名目為替レートの調整が遅れるという状況のもとで各国通貨建ての金利と低い国際金利との間のギャップのためにもたらされたものである。こうした状況のもとで各国通貨の価値が高まった。この効果が安定化政策を支えたわけだが、同時にこれは対外競争力に負の影響を与え、ドル換算した国内コストを引き上げた。この経済政策上のディレンマを前にして、いくつかの政府はさまざまな戦略に出た。多くの国の中央銀行が為替市場に介入し、為替レートの低下を抑えるために、ドル買い介入を行なった。これらの操作は政府の外貨準備を増やし、国内通貨に換算した通貨量を増大させた。これは、安定化政策に掲げた目的を達成するために必要な通貨供給量を上回るものであった。またある国では、金融政策においてより大幅な自主性が保たれる一方で反インフレの目的が優先された。これは実質為替レートの大幅な低下を意味した。

加えて、多くのラテンアメリカ・カリブ諸国がとりいれた貿易自由化と関税引き下げもインフレ

鎮静に役立った。これらの政策が、物価を引き下げ、全般的な財の供給増大をもたらしたのである。

### 3. 国際収支

先進工業国経済の低迷、特に米国の不況によりラテンアメリカ・カリブ地域の輸出は前年よりもさらに落ちこんだ。また、先進工業国経済の低迷は一次産品価格の低下傾向を長引かせている。石油をのぞく基礎産品の国際平均価格(ドル建て)は1991年にはまたしても約6%の低下を示した。なかでも価格低下が激しかったのは-10%を記録した金属である。湾岸危機の影響で90年8月から10月にかけて著しく上昇した石油価格も戦争が勃発した91年1月中旬には大幅に下落し、2月には危機以前の水準に戻った。また91年には国際的に金利の低下がみられた。LIBORは90年には年率で7.8%であったのが91年12月には5%以下にまで下がった。これは65年以来最低の水準である。

1991年のラテンアメリカ・カリブ地域の輸出総額は1220億ドルにとどまり、87年以来継続していた年平均12%の輸出拡大傾向にブレーキがかかった。輸出額が停滞したのは、輸出量が6%近く増えた一方輸出の単位当たり価格が5%低下したためである。輸出実績は地域内でもさまざまであった。石油輸出国では輸出額は1%以上減少した。これは輸出量が8%近く増えた一方、平均石油価格が下落したのがひびいて輸出単位当たり価格が9%近く落ちこんだためである。非石油輸出国では輸出額は2%以下の控えめな成長を示した。これは単位当たり価格は多少低下したものの輸出量が大幅に拡大したためである。非石油輸出国の中では南米諸国で輸出額が伸び悩み、中米・カリブ諸国では10%という大幅な輸出拡大が記録された。

ラテンアメリカ・カリブ地域の輸入総額は1991年には大幅(19%)に拡大して1100億ドルに達し、2年連続して拡大傾向を示した。輸入の単位当たり価格は変化しておらず、この輸入額の拡大は全面的に輸入量の増加によるものである。石油輸出国

の輸入の増加率は26%、非石油輸出国では12%であった。輸入の拡大は地域内のほとんどの国においてみられたが、地域全体の輸入拡大(177億ドル)の大部分は、メキシコ(77億ドル)、ベネズエラ(40億ドル)、アルゼンチン(36億ドル)の3カ国に集中していた。

輸出額が伸び悩んでいる一方輸入額が著しく増加したため、貿易収支の黒字幅は大幅に縮小した。貿易黒字は1986年から89年にかけて213億ドルから294億ドルという顕著な伸びを示し、90年にはその水準を保っていたが、91年には120億ドル以下に落ち込み、83年以来最低となった。この地域全体の貿易黒字の縮小の大部分は、ベネズエラ、アルゼンチンで貿易黒字が大幅に減少したこと(それぞれ50億ドル以上減、43億ドル減)、メキシコで貿易赤字が73億ドルも増大したことによる。その一方、コロンビア(約7億ドル)、チリ(4億ドル以上)では貿易黒字が拡大した。また、コスタリカ、パナマ、ドミニカ共和国では貿易赤字が縮小した。ブラジルは110億ドルという高い貿易黒字を維持した(表4を参照)。

ラテンアメリカ・カリブ地域の1991年の純利潤・利子支払いは293億ドルで前年に比べ50億ドル減少した。この原因としては、多くの国の対外債務のほとんどが変動利子制である銀行からの借り入れであったため、LIBORが2%低下したことにより利子支払いが軽減されたことがある。それに加え、利子支払い延滞という形で大幅な外貨流入が計上されたことも挙げられる。しかし、中米・カリブのいくつかの国では、純利潤・利子支払いが増加、あるいは前年と同じ水準に留まり減少しなかった。これは、それらの国の債務のほとんどが固定利子制のものであったため、国際利子率低下の恩恵をうけられなかったためである。

利潤・利子支払いは減少したが、それを上回る規模で貿易黒字が激減した結果、経常収支赤字は41億ドルから174億ドルへと拡大した。

資本収支は黒字幅が1990年から倍増し360億ドル

に達した。これは主に、メキシコとアルゼンチンが資本収支黒字幅を大幅に増大させたこと(それぞれ約110億ドルと35億ドルの増加)、ベネズエラが46億ドルの赤字から20億ドル近くの黒字に転換した結果である。メキシコでは1991年には前年の黒字額が倍増し200億ドルに達した。これは、外資の直接投資、証券投資(公営企業の民営化に関するものも含む)の増加、および海外からの送金などの資金流入の結果である。アルゼンチンでは50億ドル以上の資本収支黒字を計上した。その一部は対外債務の利子延滞によるものだが、大部分は短期融資(その一部は海外からの送金)の結果である。ベネズエラでは資本収支が黒字に転換したが、これは前年のように大量の資本流出がなかったこと、国営企業(電話・通信公社、国営航空)の民営化により大量の資本流入があったこと、そしてユーロ債の発行によるものである。

資本収支黒字が経常収支赤字の2倍以上であったため、ラテンアメリカ・カリブ地域の総合収支は187億ドルの黒字となり、前年に比べ黒字が30%増加した。この結果、同地域のほとんどの国で外貨準備の著しい増加がみられ、外貨準備高が低下したのは4カ国のみだった。外貨準備が大幅に増加したのはメキシコ(70億ドル)、ベネズエラ(38億ドル)、アルゼンチン(25億ドル)、コロンビア(約24億ドル)などの国々で、逆に外貨準備が減少したのはブラジル(1億ドル減)、ドミニカ共和国(8000万ドル減)、パラグアイ(1億2000万ドル減)であった。

#### 4. 対外債務

1991年のラテンアメリカ・カリブ地域の対外債務は、データが不足している英語圏カリブ諸国を除いて、事実上変化がなく4260億ドルであった。これにはさまざまな要因が働いている。今年はいブレイディ・プランによる、債務を軽減するための銀行との間での新しい協定は締結されなかったが、米国政府は域内7カ国との二国間公的債権の多く

を放棄した。債務のスワップ制度によって債務を軽減することができた国もある。また、米ドルのヨーロッパ通貨に対する価値の下落(2カ月で6%)で、ヨーロッパ通貨建てで多額の債務を負っていた国々にとっては、債務の削減効果があった。債務の増加を抑制するのに役立つもう一つの要因は、信用以外の資本の相当量の流入で、とくに海外に逃避していた資本の還流と外国からの投資である。逆に、債務拡大の主な要因は、国際債券市場においていくつかの国が多額の借り入れを行なったことと、とくに民間商業銀行への債務の延滞利子の累積である。91年の末までに支払い遅延の債務総額は250億ドルを超えた。

1991年に少なくとも7カ国がその債務を減らした。ほとんどのケースにおいて、債務が減少したのは債権国側の債権の放棄のためであるところが大きい。米国政府は、ガイアナ、ホンジュラスおよびニカラグアへの二国間債権の90%以上を帳消しにした。さらに、ハイチとボリビアへの約70%の債権、ジャマイカへの25%、チリへの4%の債権を放棄している。ニカラグア、ホンジュラスおよびボリビアの場合には、米国の債権放棄の額があまりに大きかったので、延滞利子を含む新たな債務の累積効果を充分相殺し、対外債務の絶対総額を減少させた。チリの米国政府に対する債務は比較的少ない。債務総額の8%の減少は、基本的に公的債務の元本償却によるものである。他方、ウルグアイの対外債務の3%減少は、ブレイディ・プランのおかげで前年銀行との間に締結された合意によるものである。このブレイディ・プランのなかには、支払いが非常に遅れていた多国間借款も含まれていた。

アルゼンチンの債務が6%減少したのは、前年末に調印された国営電話・通信公社および国営航空会社の民営化によるものである。この民営化には、民間銀行への70億ドルの債務のスワップが含まれていた。このスワップによって、アルゼンチンが銀行に負っていた債務の約60%にかかっていた延



滞利子の累積部分が相殺された。これらの遅延が重くのしかかっていた公共部門は、債券を発行して国際資本市場に復帰することができた。その代表的なものが2年ものの債券を3億ドル発行したことである。その高い配当(12%)と、政府の構造調整政策の進展、ならびにブレイディ・プランによって翌年銀行との間にさらに合意がまとまるだろうとの期待が高まったことが、投資家をひきつけるのに役立った。

ブラジルの債務については事実上変化はない。ブラジルにおける債務減少効果として、米ドルのヨーロッパ通貨に対する価値下落や、債務のいくらかの免除が挙げられる。商業銀行への公共部門の債務の約70%とパリクラブ債権国への債務の大部分にかかっている延滞利子の累積、およびいくつかの国営企業が新たに発行した10億ドルを超える債券のために発生した債務の増加分は、上記の減少効果によって相殺された。債券投資は、とくに債務返済に追われる公共部門の支払い遅延を考えれば注目されるものであり、それはいろいろな要因によって進められた。たとえば、非常に高率の配当(12~14%)を出すこと、ブラジル政府の側の債務問題の分散化政策によって民間部門と支払い能力がある公営企業に對外債務の直接交渉を認

めたこと、ブレイディ・プランの前に締結された銀行との合意によって、1990年末までに累積された延滞利子のうち80億ドルを削減するための制度が確立された。ブラジルは91年中にこれらの遅延債務の20億ドルを現金支払いによって決済した。さらにブラジル政府は、おそらく翌年になされるであろうブレイディ・プランに基づく合意に調印したときに、10年ものの債券の発行によって残りを返済することに同意した。

1991年にメキシコの債務が3%増加したのは、この国が国際債券市場への参入を強化したことが大きく影響している。90年にメキシコ政府は25億ドルを超す国際債券を発行したのに続き、91年10月までに約20億ドルの同種債券を発行した。その金額はさておき、債券市場におけるメキシコの活動ぶりの中で特筆すべきことは、融資の好条件が持続されたことである。すなわち、これらの債券の7年から10年の満期が到来したこと、その初期利子が、米国財務省によるこれら債券に対する上乗せ金利が89年の8%から91年には3%に下落したことである。債務の増加は、債務のスワップ、二次市場でのオペレーション、およびメキシコが信用以外の對外金融へ自由にアクセスできるようになったことによって抑制された。

(山岡/中南米総合研究プロジェクト・チーム)  
坂口/総合研究部

表1 ラテンアメリカ・カリブ経済基礎指標<sup>a</sup>

経済指標	単位	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991 <sup>b</sup>
GDP	(1980=100)	99.5	102.8	106.8	110.0	111.2	112.6	113.0	116.3
人口	100万人	388.8	397.2	405.7	414.2	422.9	431.6	440.3	449.2
1人当りGDP	(1980=100)	91.0	92.0	93.5	94.3	93.3	92.6	91.1	91.9
GDP成長率	%	3.6	3.3	3.8	3.0	1.1	1.3	0.3	3.0
1人当りGDP成長率	%	1.3	1.1	1.6	0.9	-1.0	-0.8	-1.7	0.9
消費者物価上昇率 <sup>c</sup>	%	184.7	274.1	64.5	198.5	778.8	1161.0	1186.3	202.4
交易条件の推移	%	6.4	-4.6	-11.0	-0.8	-0.3	0.5	-1.5	-5.2
商品輸出による購買力の伸び	%	13.4	-4.6	-11.9	8.0	8.1	2.8	4.3	0.8
商品輸出額の伸び	%	11.5	-5.8	-15.6	14.4	13.9	9.8	9.7	0.4
商品輸入額の伸び	%	3.9	0.2	2.5	12.7	13.8	6.6	13.3	19.2
商品輸出額	10億ドル	97.7	92.0	77.6	88.8	101.1	110.0	121.7	122.2
商品輸入額	10億ドル	58.2	58.2	59.7	67.3	76.6	81.7	92.5	110.3
貿易収支	10億ドル	39.5	33.8	17.9	21.5	24.5	29.3	29.2	11.9
純利潤・利子支払い	10億ドル	37.3	35.3	32.6	31.5	34.3	37.9	34.4	29.3
経常収支 <sup>d</sup>	10億ドル	-1.0	-3.6	-17.4	-11.1	-11.2	-6.8	-4.1	-17.4
資本収支 <sup>e</sup>	10億ドル	10.4	3.0	9.9	15.4	5.5	9.6	18.4	36.0
総合収支 <sup>f</sup>	10億ドル	9.4	-0.6	-7.5	4.3	5.7	2.8	14.4	18.6
対外債務残高 <sup>g</sup>	10億ドル	373.4	385.1	401.0	427.6	420.9	420.4	435.4	426.2 <sup>h</sup>
純資金移転 <sup>i</sup>	10億ドル	-26.9	-32.3	-22.7	-16.0	-28.8	-28.3	-16.0	6.7

(注) a GDPの関連指標は表2の33カ国, 消費者物価指数は表3の22カ国, 対外指標は表6の19カ国のデータによる。

b 推定値。

c 前年12月から12月までの上昇率。

d 純民間移転を含む。

e 長短期資本移転, 公的移転, 誤差, 脱漏を含む。

f 外貨準備の変動に統計上の調整を加えたものに相当する。

g 表5の(注)を参照。

h トリニダード・トバゴ, ガイアナ, ジャマイカを除く。

i 純資本流入から純利潤・利子支払いを差し引いたもの。

表2 GDP成長率

	GDP										累積変化率 1981~1991 <sup>a</sup>	1人当りGDP					累積変化率 1981~1991 <sup>a</sup>	
	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991 <sup>a</sup>	1984	1985		1986	1987	1988	1989	1990		1991 <sup>a</sup>
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)		(%)
ラテンアメリカ・カリブ <sup>b</sup>	3.6	3.3	3.8	3.0	1.1	1.3	0.3	3.0	16.3	1.3	1.1	1.6	0.9	-1.0	-0.8	-1.7	0.9	-8.1
石油輸出国	2.8	2.2	0.3	2.5	2.3	0.0	3.7	4.4	19.8	0.4	-0.2	-2.0	0.2	0.1	-2.2	1.4	2.2	-7.1
ボリビア	-0.6	-1.0	-2.5	2.6	3.0	2.8	2.6	3.5	2.2	-3.1	-3.4	-4.9	0.1	0.5	0.3	0.2	1.0	-22.4
エクアドル	3.8	3.8	6.9	5.6	4.2	3.5	4.2	2.0	46.8	1.7	1.7	4.8	3.5	2.2	1.5	2.2	0.0	17.5
コロンビア	4.8	4.8	3.4	-9.5	14.3	0.1	2.5	3.5	29.0	2.0	2.1	0.7	-11.8	11.4	-2.4	0.0	1.0	-3.4
メキシコ	3.6	2.6	-3.8	1.8	1.4	3.1	3.9	4.0	21.9	1.2	0.2	-5.9	-0.5	-0.8	0.9	1.6	2.0	-5.4
ペルー	4.8	2.2	8.7	8.0	-8.4	-11.4	-4.9	2.0	-8.8	2.4	0.0	6.4	5.8	-10.3	-13.2	-6.8	0.0	-28.3
トリニダード・トバゴ	-2.2	-4.2	-2.1	-5.5	-2.5	-0.2	1.3	1.5	-18.9	-3.7	-5.7	-3.6	-6.9	-4.1	-1.8	-0.3	0.0	-31.8
ベネズエラ	-0.7	0.0	6.6	3.8	5.9	-7.8	5.8	8.5	12.0	-3.4	-2.7	3.7	1.1	3.1	-10.2	3.2	5.9	-16.8
非石油輸出国 <sup>b</sup>	4.2	4.3	6.7	3.5	0.1	2.3	-2.2	1.8	13.7	2.1	2.2	4.5	1.4	-1.9	0.3	-4.1	-0.1	-9.1
南米	4.5	4.7	7.1	3.4	0.1	2.2	-2.5	1.9	13.5	2.4	2.6	5.0	1.4	-1.8	0.3	-4.3	0.0	-8.5
アルゼンチン	2.4	-4.4	6.1	2.1	-2.8	-4.6	-0.2	4.5	-7.7	1.0	-5.7	4.7	0.8	-4.0	-5.8	-1.4	3.0	-20.3
ブラジル	5.3	8.0	7.6	3.4	0.1	3.2	-3.8	1.0	18.1	3.0	5.7	5.3	1.3	-1.9	1.2	-5.7	-1.0	-6.6
チリ	5.6	2.2	5.7	5.7	7.5	9.8	2.0	5.0	39.3	3.9	0.5	4.0	3.9	5.7	8.0	0.3	3.5	16.0
ガイアナ	2.2	1.1	0.3	0.7	-4.0	-5.0	-5.8	...	-28.6	0.3	-0.8	-1.6	-1.0	-5.8	-6.6	-7.3	...	-41.6
パラグアイ	3.2	4.0	-0.3	4.5	6.7	5.9	3.1	3.0	40.7	0.0	0.9	-3.3	1.5	3.6	2.9	0.2	0.0	0.7
スリナム	-1.9	2.0	0.8	-6.2	7.1	2.0	0.2	...	2.1	-3.2	0.7	-0.6	-7.4	5.5	0.5	-1.3	...	-11.4
ウルグアイ	-1.7	1.7	8.3	7.9	-0.2	0.6	0.8	2.0	2.6	-2.3	1.1	7.6	7.3	-0.7	0.1	0.2	1.5	-3.9
中米・カリブ諸国 <sup>b</sup>	1.5	0.6	2.3	4.4	-0.2	3.3	1.0	1.6	15.9	-0.8	-1.7	0.0	2.0	-2.5	0.9	-1.4	-0.8	-10.4
パナマ	3.0	13.5	3.6	4.9	4.5	4.0	0.2	...	53.3	1.7	11.6	1.9	3.6	2.8	2.8	-1.3	...	30.1
バルバドス	3.6	0.9	5.2	2.6	3.6	3.4	-3.1	-1.0	8.3	3.2	0.5	4.7	1.8	3.2	2.6	-3.8	-1.8	2.6
ベリーズ	2.8	2.4	2.7	13.3	7.1	5.1	0.2	...	40.4	0.3	1.8	0.2	11.3	4.7	2.8	-2.0	...	9.4
キューバ <sup>c</sup>	7.2	4.6	1.2	-3.9	2.2	1.1	1.0	...	43.8	6.3	3.6	0.2	-4.9	1.1	0.0	0.0	...	30.0
ジャマイカ	0.4	0.4	1.0	0.1	1.3	0.7	-0.6	-1.5	-3.9	-1.5	-1.5	-1.0	-1.9	-0.8	-1.3	-2.7	-3.4	-22.3
パナマ	-0.4	4.8	3.5	2.0	-16.0	-0.3	3.8	2.0	21.6	-2.2	-6.8	0.7	5.1	-0.5	4.6	2.3	0.4	3.3
ドミニカ共和国	0.3	-1.9	3.0	7.9	1.0	4.5	-4.8	0.0	21.7	-2.0	-4.1	0.7	5.5	-1.2	2.3	-6.8	-2.0	-5.3
中米共同市場	2.5	0.3	1.5	3.3	1.6	3.0	2.5	2.1	11.6	-0.1	-2.3	-1.1	0.7	-1.1	0.3	-0.3	-0.7	-16.5
コスタリカ	7.8	0.7	5.3	4.5	3.2	5.5	3.2	1.0	26.2	4.8	-2.1	2.4	1.6	0.4	2.7	0.6	-1.5	-7.4
エルサルバドル	2.3	1.8	0.5	2.7	1.5	1.1	3.4	3.0	2.0	1.5	0.6	-1.0	1.0	-0.3	-0.8	1.4	1.0	-12.6
グアテマラ	0.7	-0.2	0.5	3.7	4.1	4.2	3.3	3.0	12.0	-2.1	-3.0	-2.4	0.8	1.1	1.3	0.3	0.5	-18.2
ホンジュラス	3.5	2.9	2.3	4.9	4.6	4.0	-0.1	1.0	26.0	-0.1	-0.6	-1.1	1.5	1.4	0.8	-3.2	-2.0	-12.9
ニカラグア	-1.6	-4.1	-1.0	-0.7	-13.4	-5.2	0.1	1.0	-16.0	-4.3	-6.7	-3.5	-3.0	-15.4	-7.6	-2.9	-3.0	-38.2
OECD諸国 <sup>a</sup>	6.2	5.7	7.1	6.0	7.2	5.2	4.3	0.5	68.2	5.6	4.7	6.1	4.8	6.0	4.2	3.3	-0.4	51.4
アンティグア・バーブーダ	7.4	8.8	9.7	9.0	7.7	5.2	2.7	...	83.5	7.4	8.8	9.7	9.0	7.7	5.2	2.7	...	81.1
ドミニカ	5.5	1.7	6.8	6.8	8.0	-1.2	6.3	...	54.3	8.3	0.4	5.4	5.4	6.6	-2.4	5.0	...	37.4
グラナダ	5.5	5.0	5.4	6.0	5.3	5.7	5.3	4.0	64.1	4.4	3.9	4.3	3.9	4.2	3.6	4.2	3.0	45.1
セントクリストファー・ネイビス	9.1	5.5	6.4	4.8	6.9	12.1	2.6	...	74.2	9.1	5.5	6.4	4.8	6.9	12.1	2.6	...	74.2
セント・ルシア	5.0	6.0	5.8	2.2	6.8	3.5	3.7	-1.0	48.6	3.3	4.4	4.1	1.4	5.2	2.7	2.2	-2.0	27.1
セント・ヴィセント及びグレナディーン諸島	5.5	4.6	7.2	6.4	8.6	7.2	6.6	...	86.1	3.6	3.6	6.2	4.5	6.7	6.2	5.7	...	63.9

(注) a 推定値。b キューバを除く。c 社会総生産。d OECD: 東カリブ諸国機構。

表3 消費者物価上昇率

	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991 <sup>a</sup>
ラテンアメリカ・カリブ	130.5	184.7	274.1	64.5	198.5	778.8	1,161.0	1,186.3	202.4
アルゼンチン	433.7	688.0	385.4	81.9	174.8	387.7	4,923.8	1,343.9	91.3 <sup>b</sup>
バルバドス	5.5	5.1	2.4	-0.5	6.3	4.4	6.5	3.4	5.7 <sup>c</sup>
ボリビア	328.5	2,177.2	8,170.5	66.0	10.7	21.5	16.6	18.0	16.0 <sup>d</sup>
ブラジル	179.2	203.3	228.0	58.4	365.9	993.3	1,863.6	1,585.2	465.8 <sup>b</sup>
コロンビア	16.5	18.3	22.3	21.0	24.0	28.2	26.1	32.0	29.0 <sup>d</sup>
コスタリカ	10.7	17.3	11.1	15.4	16.4	25.3	10.0	27.5	26.7 <sup>b</sup>
チリ	23.6	23.0	26.4	17.4	21.5	12.7	21.4	27.3	17.8 <sup>b</sup>
エクアドル	52.5	25.1	24.4	27.3	32.5	85.7	54.2	49.5	46.8 <sup>b</sup>
エルサルバドル	15.5	9.8	30.8	30.3	19.6	18.2	23.5	19.3	14.3 <sup>d</sup>
グアテマラ	15.4	5.2	31.5	25.7	10.1	11.0	17.9	59.6	24.6 <sup>d</sup>
ハイチ	11.2	5.4	17.4	-11.4	-4.1	8.6	10.9	26.1	16.6 <sup>c</sup>
ホンジュラス	7.2	3.7	4.2	3.2	2.7	6.7	11.4	36.4	33.2 <sup>e</sup>
ジャマイカ	16.7	31.2	23.9	10.5	8.4	8.8	17.2	29.7	56.0 <sup>c</sup>
メキシコ	80.8	59.2	63.7	105.7	159.2	51.7	19.7	29.9	19.9 <sup>d</sup>
ニカラグア	35.5	47.3	334.3	747.4	1,347.4	33,602.6	1,690.0	13,490.9	1,183.2 <sup>b</sup>
パナマ	2.0	0.9	0.4	0.4	0.9	0.3	-0.2	1.5	2.9 <sup>d</sup>
パラグアイ	14.1	29.8	23.1	24.1	32.0	16.9	28.5	44.1	13.5 <sup>d</sup>
ペルー	125.1	111.5	158.3	62.9	114.5	1,722.6	2,776.6	7,657.8	185.4 <sup>b</sup>
ドミニカ共和国	7.7	38.1	28.4	6.5	25.0	57.6	41.2	100.7	25.2 <sup>d</sup>
トリニダード・トバゴ	15.4	14.1	6.6	9.9	8.3	12.1	9.3	9.5	4.1 <sup>f</sup>
ウルグアイ	51.5	66.1	83.0	76.4	57.3	69.0	89.2	129.0	85.5 <sup>b</sup>
ベネズエラ	7.0	18.3	5.7	12.3	40.3	35.5	81.0	36.5	32.7 <sup>d</sup>

(注) a 各国別に示した月までの12カ月間の上昇率。b 90年11月～91年11月の上昇率。c 90年8月～91年8月の上昇率。d 90年10月～91年10月の上昇率。e 90年9月～91年9月の上昇率。f 90年6月～91年6月の上昇率。

表4 貿易収支

(単位:100万ドル)

	輸出 (FOB)			輸入 (FOB)			貿易収支		
	1989	1990	1991 <sup>a</sup>	1989	1990	1991 <sup>a</sup>	1989	1990	1991 <sup>a</sup>
ラテンアメリカ・カリブ	110,035	121,747	122,215	81,651	92,541	110,315	29,384	29,206	11,900
石油輸出国	48,331	57,977	57,280	39,813	46,802	59,010	8,518	11,175	-1,730
ボリビア	724	831	760	730	776	790	-6	55	-30
コロンビア	6,031	7,105	7,540	4,557	5,088	4,855	1,474	2,017	2,685
エクアドル	2,354	2,714	2,810	1,693	1,711	2,055	661	1,003	755
メキシコ	22,765	26,773	27,170	23,410	29,799	37,530	-645	-3,026	-10,360
ペルー	3,542	3,276	3,320	2,140	2,885	3,265	1,402	391	55
ベネズエラ	12,915	17,278	15,680	7,283	6,543	10,515	5,632	10,735	5,165
非石油輸出国	62,704	63,770	64,935	41,838	45,739	51,305	20,866	18,031	13,630
南米	54,794	55,163	55,455	30,766	33,808	38,565	24,028	21,355	16,890
アルゼンチン	9,573	12,354	11,700	3,864	3,726	7,360	5,709	8,628	4,340
ブラジル	34,375	31,414	32,000	18,263	20,424	21,000	16,112	10,990	11,000
チリ	8,080	8,310	8,860	6,502	7,037	7,260	1,578	1,273	1,600
パラグアイ	1,167	1,392	1,280	1,001	1,354	1,475	166	38	-195
ウルグアイ	1,599	1,693	1,615	1,136	1,267	1,470	463	426	145
中米・カリブ諸国	7,910	8,607	9,480	11,072	11,931	12,740	-3,162	-3,324	-3,260
コスタリカ	1,333	1,366	1,510	1,572	1,833	1,700	-239	-467	-190
エルサルバドル	558	580	620	1,220	1,110	1,275	-662	-530	-655
グアテマラ	1,126	1,211	1,245	1,484	1,428	1,645	-358	-217	-400
ハイチ	148	139	125	259	225	220	-111	-86	-95
ホンジュラス	967	943	925	964	1,014	995	3	-71	-70
ニカラグア	290	321	290	547	592	590	-257	-271	-300
パナマ	2,564	3,312	3,990	3,062	3,936	4,565	-498	-624	-575
ドミニカ共和国	924	735	775	1,964	1,793	1,750	-1,040	-1,058	-975

(注) a 推定値。

表5 対外債務<sup>a</sup>

	対外債務残高 (100万ドル)						年増加率 (%)				
	1986	1987	1988	1989	1990	1991 <sup>b</sup>	1979 ~81	1982 ~83	1984 ~89	1990	1991 <sup>b</sup>
ラテンアメリカ・カリブ	400,958	427,611	420,877	420,395	435,388	426,285 <sup>c</sup>	22.9	11.2	2.7	3.6	-0.2 <sup>e</sup>
石油輸出国	178,317	184,812	185,176	178,045	182,990	184,750 <sup>c</sup>	24.7	10.7	1.3	2.8	2.1 <sup>e</sup>
ボリビア <sup>d</sup>	3,536	4,162	4,066	3,492	3,774	3,550	14.3	9.4	1.6	8.1	-6.0
コロンビア	14,987	15,663	16,434	16,013	16,703	16,700	28.0	16.0	5.7	4.3	0.0
エクアドル	9,080	10,299	10,587	11,322	11,855	12,100	21.0	18.3	6.3	4.7	2.1
メキシコ	100,500	102,400	100,900	95,100	98,200	100,900	30.2	11.9	0.2	3.3	2.7
ペルー	14,477	15,373	16,493	16,827	17,347	18,500	1.0	13.8	5.2	3.1	6.6
トリニダード・トバゴ	1,898	2,082	2,012	2,097	2,102	...	29.3	16.3	6.7	0.2	...
ベネズエラ <sup>e</sup>	33,839	34,833	34,684	33,194	33,009	33,000	24.7	4.0	-0.7	-0.6	0.0
非石油輸出国	222,641	242,799	235,701	242,350	252,398	241,535 <sup>c</sup>	21.5	11.7	3.9	4.1	-2.0 <sup>e</sup>
南米	191,818	209,825	201,342	206,752	216,724	209,920 <sup>c</sup>	21.9	11.1	3.5	4.8	-2.3 <sup>e</sup>
アルゼンチン	51,422	58,324	58,803	63,314	65,000	61,000	41.9	12.4	5.8	2.7	-6.2
ブラジル	111,045	121,174	113,469	115,096	122,200	122,800	14.4	10.5	2.7	6.2	0.5
チリ	20,716	20,660	18,960	17,520	18,576	17,150	30.5	7.6	-0.5	6.0	-7.7
ガイアナ	1,542	1,736	1,778	1,801	1,802	...	28.1	17.8	11.0	0.1	...
パラグアイ	1,855	2,043	2,002	2,027	1,763	1,840	12.3	24.5	5.5	-13.0	4.4
ウルグアイ	5,238	5,888	6,330	6,994	7,383	7,130	35.9	21.2	7.3	5.6	-3.4
中米カリブ諸国	30,823	32,974	34,359	35,598	35,674	[31,615 <sup>f</sup> ]	18.7	16.1	6.3	0.2	[0.3 <sup>f</sup> ]
コスタリカ	4,079	4,384	4,471	4,513	3,700	3,850	12.8	14.7	4.2	-18.0	4.1
エルサルバドル	1,928	1,880	1,913	2,169	2,226	2,165	17.7	8.4	2.3	2.6	-2.7
グアテマラ	2,674	2,700	2,599	2,731	2,602	2,700	19.0	24.8	4.0	-4.7	3.8
ハイチ <sup>d</sup>	696	752	778	803	861	905	21.0	21.7	6.5	7.2	5.1
ホンジュラス	3,366	3,773	3,810	3,374	3,480	3,150	17.5	16.7	7.7	3.1	-9.5
ジャマイカ	3,575	4,014	4,002	4,039	4,152	...	22.6	14.9	5.6	2.8	...
ニカラグア <sup>d</sup>	5,760	6,270	7,220	8,079	8,653	8,570	27.1	21.5	13.5	7.1	-1.0
パナマ <sup>f</sup>	4,933	5,302	5,683	5,800	5,700	5,850	13.3	14.2	4.8	-1.7	2.6
ドミニカ共和国	3,812	3,899	3,883	4,090	4,300	4,425	24.2	14.0	3.6	5.1	2.9

(注) a IMFに対する債務も含む。

b 推定値。

c 1991年の合計債務残高にはトリニダード・トバゴ、ガイアナ、ジャマイカは含まれない。年増加率も同様に90年の合計額から上記3カ国を除いたもので算出。

d 公共部門債務のみ。

e 債務総額は政府資料および国際金融期間のデータによる。

f 世界銀行のデータによる。

表6 国際収支

(単位:100万ドル)

	サービス収支 <sup>a</sup>			利潤・利子支払い <sup>c</sup>			経常収支 <sup>d</sup>			資本収支 <sup>e</sup>			総合収支 <sup>f</sup>		
	1989	1990	1991 <sup>b</sup>	1989	1990	1991 <sup>b</sup>	1989	1990	1991 <sup>b</sup>	1989	1990	1991 <sup>b</sup>	1989	1990	1991 <sup>b</sup>
ラテンアメリカ・カリブ	2,050	3,760	6,495	37,945	34,374	29,310	-6,837	-4,078	-17,405	9,620	18,432	36,020	2,783	14,354	18,615
石油輸出国	-648	370	2,000	15,197	14,146	12,200	-3,347	-333	-11,830	4,691	7,153	26,150	1,344	6,820	14,320
ボリビア	160	169	175	254	247	245	-399	-339	-425	295	352	540	-104	13	115
コロンビア	322	273	380	2,245	2,352	1,730	-181	406	2,265	615	206	95	434	612	2,360
エクアドル	162	186	315	1,068	1,053	995	-569	-236	-555	762	618	580	193	382	25
メキシコ	-2,594	-2,067	-2,000	7,982	7,765	6,900	-4,111	-6,517	-12,590	4,289	8,820	19,590	178	2,303	7,000
ペルー	386	610	840	1,280	1,411	1,590	-264	-1,630	-2,375	858	1,776	3,380	594	146	1,005
ベネズエラ	916	1,199	2,290	2,368	1,318	740	2,177	7,983	1,850	-2,128	-4,619	1,965	49	3,364	3,815
非石油輸出国	2,698	3,390	4,495	22,748	20,228	17,110	-3,868	-3,745	-5,575	4,929	11,279	9,870	1,439	7,534	4,295
南米	3,876	4,542	5,830	21,307	18,880	15,590	-863	-1,105	-3,290	2,012	8,580	6,485	1,149	7,475	3,195
アルゼンチン	600	707	1,640	6,422	6,203	5,300	-1,305	1,789	-2,600	-43	1,588	5,100	-1,348	3,377	2,500
ブラジル	2,784	3,527	3,750	12,547	10,498	8,150	1,007	-2,201	300	693	3,454	-400	1,700	1,253	-100
チリ	635	485	365	1,925	1,811	1,865	-924	-970	-590	1,493	3,301	1,390	569	2,331	800
パラグアイ	-111	-65	195	64	46	15	214	61	-405	-102	171	285	112	232	-120
ウルグアイ	-32	-112	-120	349	322	260	145	216	5	-29	66	110	116	282	115
中米・カリブ諸国	-1,178	-1,152	-1,335	1,441	1,348	1,520	-2,627	-2,640	-2,285	2,917	2,699	3,385	290	59	1,100
コスタリカ	-12	-26	-80	380	284	210	-567	-679	-270	713	472	525	146	-207	255
エルサルバドル	36	42	15	107	138	125	-572	-364	-325	687	481	395	115	117	70
グアテマラ	67	123	160	191	171	180	-438	-371	-525	510	302	825	72	-69	300
ハイチ	100	94	85	26	25	25	-178	-158	-160	179	185	155	1	27	-5
ホンジュラス	84	85	115	266	265	270	-331	-400	-430	302	506	420	-29	-17	-10
ニカラグア	62	65	95	205	236	250	-524	-572	-585	456	353	585	-68	-219	0
パナマ	-761	-755	-980	34	78	150	194	18	220	-143	278	350	51	296	570
ドミニカ共和国	-754	-780	-745	232	151	310	-211	-114	-210	213	122	130	2	8	-80

(注) a 純利潤・利子支払いを除く。 b 推定値。 c 延滞利子を含む。 d 純民間移転を含む。これは1991年にはコロンビア、メキシコ、ブラジル、エルサルバドル、グアテマラ、ドミニカ共和国で無視できない額に達した。 e 長短期資本移転、公的移転、誤差、脱漏を含む。 f 外貨準備の変動に統計上の調整を加えたものに相当する。

表7 ラテンアメリカ・カリブへの純資金移転

(単位:10億ドル)

	資本収支 (1)	純利潤・ 利子支払い (2)	資金移転 (3) = (1) - (2) (3)	輸 出 (4)	(5) = (3) / (4) (%)
1975	14.3	5.6	8.7	41.0	21.2
1976	17.9	6.8	11.1	47.3	23.5
1977	17.2	8.2	9.0	55.8	16.1
1978	26.2	10.2	16.0	61.3	26.1
1979	29.1	13.7	15.4	82.0	18.8
1980	32.0	18.9	13.1	104.9	12.5
1981	39.8	28.5	11.3	113.2	10.0
1982	20.1	38.8	-18.7	102.9	-18.2
1983	2.9	34.5	-31.6	102.4	-30.9
1984	10.4	37.3	-26.9	113.6	-23.7
1985	3.0	35.3	-32.3	108.6	-29.7
1986	9.9	32.6	-22.7	94.7	-24.0
1987	15.4	31.4	-16.0	107.9	-14.8
1988	5.5	34.3	-28.8	123.0	-23.4
1989	9.6	37.9	-28.3	136.4	-20.8
1990	18.4	34.4	-16.0	150.5	-10.6
1991(推定値)	36.0	29.3	6.7	151.8	4.4